

(4) 検証授業Ⅱの実際（始良市立蒲生小学校 5年 平成22年10月12日, 13日, 14日, 15日, 18日）

ア 検証授業Ⅰの課題から

【視点1】について

- ・ 「『生命尊重』道徳学習」①で高めた課題意識を生かして、自分が知らない他者の生命の大切さに気付けるような社会科の教材を指導計画に位置付ける。
- ・ 道徳の時間においては、「『生命尊重』道徳学習」①で取り上げることが少なかった「喜び」の観点から、生き抜く希望や勇気に迫る主題を指導計画に設定する。

【視点2】について

- ・ 「『生命尊重』道徳学習」①で高まった課題意識を持続、発展させるために掲示物を工夫したり、それを活用した言葉掛けの工夫を行ったりする。
- ・ 一人一人の子どもが自分自身への「誇り」と他者への「感謝」をより深く自覚できるように保護者の協力を得て指導の工夫を行う。
- ・ 子どもが自他共によりよく生きようとしている姿を見取り、適切に称賛するための指導チェックリストを活用する。

イ 5年「『生命尊重』道徳学習」②の指導計画【視点1】

特に関連付ける各教科等の学習			
総合的な学習の時間「おいしいお米を育てるために」6～10月	社会科「世界とつながる自動車」10月	体育科「かけっこ・柔道（運動会練習）」9・10月	保健「秋の大運動会」9・10月
【目標】 おいしいお米を育てるためにはどうすればいいのか、友達と協力して企画、栽培、食事をします。 【生命尊重の観点】 ・ 友達とのかかわりの中で支え合いや助け合いを体験する。 ・ 「つながり」「喜び」 ・ 「いただきます」と「ごちそうさま」の意味を考えさせ、生命のつながりに気付かせる。	【目標】 原材料の確保や製品の販売などに見られる貿易や運輸などの働きを取り上げ、貿易や運輸などが工業生産を支える大切な働きをしていることについて具体的に調べる。 【生命尊重の観点】 ・ 原材料の輸入や自動車の輸出を通して、世界中で多くの人々が支え合っていることに気付かせるように貿易のつながり図を作る。 「つながり」	【目標】 日常の体育学習を中心とした教育活動の総合的成果を発表する機会にするとともに運動する喜びを味わわせる。 【生命尊重の観点】 ・ 自分のめあてを立て、それに向かって努力すること ・ 精一杯生きようとする ・ 友達と同じ目標に向かって協力することで支え合いの大切さに気付かせる。 「喜び」「つながり」	
要となる道徳の時間			
【主題名】支え合い生きぬこうとする思い 【資料名】「たくうでに力を」学習研究社 【内容項目】3-(1) 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。 【ねらい】 生命が多くの人によって支えられているかけがえのないものであることに気付く、自他の生命を大切に生きていこうとする態度を育てる。 【各教科等と関連付ける工夫】 ・ 導入段階では、1学期の「『生命尊重』道徳学習」を振り返り、かけがえのない自分の命に方向付ける。 ・ 展開段階では、社会科で学習したつながり図の学習方法を使って、赤ちゃんを支える多くの人々の立場から、多角的に命の尊さについて考えを深める。 ・ 終末段階では、総合的な学習の時間において、学年全員で協力し、支え合う姿をVTRで見せ、自他を大切にしながら支え合っていることについて課題意識を高める。			
生き方への発展			
自他の生命の大切さを実感できた子どもの姿例（見取り図に言葉と行動で称賛する）			
各教科等	豊かな体験活動	学校の生活場面	家庭の生活場面
◎ 全体やグループで友達と協力して活動している。	◎ 社会科見学で、友達と助け合って調べ学習をしている。	◎ 自己目標の達成に向けて努力している。	◎ 家族に思いやりある言動や役に立つ行動をとっている。
◎ 社会科の学習の中で人々の願いが自分とつながっていることに気付いている。	◎ 持久走大会で自分の目標タイムを目指して走っている。また、他者のがんばりに声援を送っている。	◎ 他者に思いやりある親切な言動をとっている。	◎ 向上心をもって運動や学習に取り組んでいる。
		◎ 学級園や一人一鉢の世話を熱心に行っている。	

5年「『生命尊重』道徳学習」②では、^{かなめ}要となる道徳の時間において、支え合い生き抜こうとする思いに気付く、自分のよりよい生き方について考えを深めることをねらいとしている。

そこで、「五つの生命観」の「つながり」を意識した指導を行うことができる社会科の学習を選択し、世界中の人々とつながっているおかげで豊かな生活が送れているということに気付かせる。また、『生命尊重』道徳学習①で高まった課題意識を生かして「喜び」の観点到に気付かせるために、総合的な学習の時間の米作りや体育科、特活の運動会へ向けた取り組みの中で、「みんなのおかげで自分も輝ける。自分もみんなの目標のために役に立てた。」と感じ取れる経験を積ませる。

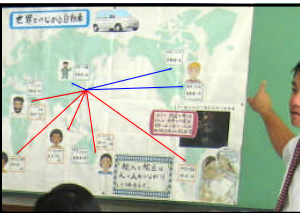
特に、高学年段階では「『生命尊重』道徳学習」①と②を通して、「五つの生命観」すべての観点から生命の大切さに気付かせる指導を計画することが重要である。

ウ 各教科等における「生命尊重」の指導の実際【視点2】

(ア) 各教科等の特質を生かす指導の工夫

教科	教材	各教科等の特質を生かした「生命尊重」の指導の意義
社会科	世界とつながる自動車	貿易や運輸などの働きを調べる活動では、貿易や運輸が工業生産を支えていることを理解させるようになっている。本教材の中で、「つながり」の観点から貿易相手国の人々と自分との関係性に気付かせる指導を行うことは、現地の人々の原材料の生産や輸出にかかる工夫や努力を考えることにもつながり、工業生産が私たちの生活を支える重要な役割を果たしていることについての理解を深めると考える。

(イ) 社会科の学習における「つながり」の生命観からの指導の実際

単元名「自動車を作る工業」 教材名「世界とつながる自動車」	
目標	原材料の確保や製品の販売などに見られる貿易や運輸などの働きを取り上げ、貿易や運輸などが工業生産を支える大切な働きをしていることについて具体的に調べる。
生命の大切さに気付かせる学習活動	
1 自動車の原材料の輸入先や自動車の輸出先の国を調べ、世界中の様々な国とよりよい協力関係にあることを理解する。	 写真11 貿易の現状を調べる
2 調べたことを基に、世界地図上に輸入先と日本を線で結び、日本と世界の国々が放射線状につながっていることを視覚を通して理解する。	 写真12 つながりを世界地図に表す
3 世界とのつながり図を基に、自分と世界中の人々がつながっていることに気付き、よりよい関係を築く大切さを理解する。	○ 資料集や地図帳を使って、輸出入について調べ、自分の力で世界とのつながりを図にまとめていくことで、貿易関係にある国々の多さに驚いたり、初めて知る国があることに感心したりする姿が見られた。 ○ 銅の輸入先のチリ落盤事故を取り上げたことで、貿易が人と人のつながりであることに気付き、事故現場の人々の無事を願う発言が多く出た。
主な感想の記述	・ わたしはほとんど日本のもので車は作られていると予想しました。けれども車一台にこんなに世界とつながり合っているなんてびっくりしました。 ・ 世界とつながる自動車を調べて、こんなに私たちは世界の人々とつながり合っているんだとびっくりしました。特に、蒲生小は、韓国とのつながりが深く、とても交流を楽しみにしています。これからも人々のつながりを大切にしていきたい。 ・ 日本に銅を一番輸出しているチリの鉱山の人たちがなんとか助かってほしい。

エ 「生命尊重」の課題意識を持続、発展させるための指導の工夫【視点2】

『生命尊重』道徳学習①で高まった課題意識を持続させることが、子どもの自他共によりよく生きようとする思いを道徳的実践に発展させることにつながる。課題意識を持続させるため、『生命尊重』道徳学習①における生命への気づきを「五つの生命観」の各観点ごとにまとめて掲示し、子どもに言葉掛けを続けた。



写真13 「始まり」の掲示



写真14 「つながり」の掲示

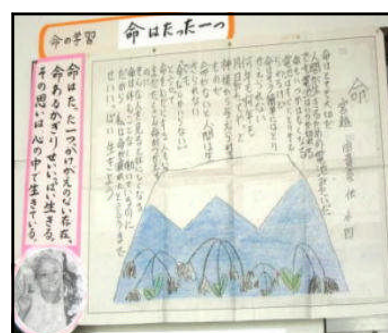


写真15 「終わり」「たった一つ」の掲示

例えば、子どもの誕生日には、掲示された三つの奇跡を振り返った後、全員で誕生日の歌を歌って「おめでとう。」の言葉をかけたり、子どもが友達に感謝する思いを綴った日記を紹介する際に、「これは〇〇さんがみんなとの『つながり』に気付いて友達に感謝する気持ちや、このクラスの一員でよかったと実感した喜びがあふれてるね。」と補足したりした。「五つの生命観」から自他の道徳的実践のよさに気付かせるために、適切な言葉掛けを続けることは、自他共によりよく生きようとする学級の雰囲気づくりにも大いに役立つと考えている。

オ 自分自身への「誇り」と他者への「感謝」の自覚をより一層深くする指導の工夫【視点2】

一つの資料や一つの説話だけで、子ども全員の心に自他の生命の大切さの実感を生むことは難しい。そこで『生命尊重』道徳学習では、各教科等において「五つの生命観」からとらえた生命への気づきを、道徳の時間に補充、深化、統合して「生命尊重」の自覚を深める。この過程で、保護者と協力することで、さらに子ども一人一人の心に届く「生命尊重」の指導が可能となる。保護者に協力を依頼したことは、次の4点である。

- | |
|---|
| (ア) 『生命尊重』道徳学習の授業参観 |
| (イ) 子どもが誕生したときの喜びなどを綴った手紙の作成
(代表者1名には、道徳の時間に手紙の読み聞かせをしてもらう。) |
| (ウ) 道徳の時間の終末で使うVTR作成用の子どもの写真提供 |
| (エ) 学校や家庭、地域で子どもがよりよく生きようとしている姿の情報交換 |

(ア) 授業参観について

ねらい	『生命尊重』道徳学習の授業参観をすることで、「五つの生命観」からの指導を理解して、子どもへのよりよいかかわり方を考えられるようにする。
留意点	① 学級PTAの際に、『生命尊重』道徳学習の概要を説明し、事前に授業日程を知らせる。 ② 授業の様子や子どもの感想、保護者の感想等を学級便りで知らせる。

(イ) 手紙の作成について

ねらい	子どもが、保護者からの手紙を読むことで、自分の誕生に対する家族の喜びや、けがや病気から守ろうとしてくれた努力、将来にわたって幸せになってほしいという願いなどを知り、自分自身への「誇り」や他者への「感謝」の自覚をより一層深められるようにする。
留意点	① 事前に、子どもの家庭環境を把握し、授業での手紙活用の可否を検討する。 ② 学級PTAで手紙の作成と授業での活用の承諾を得る。 ③ 「五つの生命観」を基に、手紙の書き方例を作成し配布する。 「始まり」 → 子どもが誕生したときの喜び 「つながり」 → けがや病気を看病する親の思い 「終わり」 → 子どもを守りたい思い 「たった一つ」 → 子どもがかけがえのない存在であること 「喜び」 → 子どもと共に生きることの喜びや希望 ④ 代表者に読み聞かせの仕方を説明する。

「あなたが生まれている喜び」を伝える手紙例（6年生）	
大好きな〇〇へ	ポイント
この手紙はいつもあまり言えないことを書いてみました。とてもうれしいかもしれないけど最後まで読んでね。	まえおき
〇〇が生まれたとき一番うれしかったのがおじいちゃんだったんだよ。おじいちゃんは、病気で、入院していて、「生まれている間にあなたに会いたい。」とずっと話していたからね。あなたの姿を見たときには、涙を流してよろこんでいたんだよ。みんなあなたのことを見ては、うれしくて笑顔になっていたよ。	誕生の喜び
〇〇が3才の時、40℃の熱を出して、けりがずっとつづいたことがあります。わたしは少しでも早く治ってほしくて、夜の闇もずっとタオルで顔を冷やしたり、パジャマを何回もかえてあせをふいたりしました。まだ小さな〇〇が苦しそうな顔をするたびに、胸が痛くてわたしも苦しくなりました。できれば、かわってあげたい気持ちでいっぱいでした。よくなったときには、うれしくて涙が出るほどでした。	病気の不安 看病する思い 回復の喜び
そんな〇〇が、こんなに大きくなって一生けんめいおんきょうしたり、運動したりするのを見ているととてもうれしいです。いつも、口うるさくしゃべったり、時々けんかしてしまったりするけれど、それもいっしょに生きているからできることです。	成長の喜び
〇〇はわたしたち家族にとってかけがえのない大切な宝物です。あなたがいて、わたしも〇〇に負けないようにがんばろうという気持ちになります。みんなで力を合わせて世界一楽しい家族になろうね。これからもずっと見ていようよ。何かあったらいつでもあなたのそばにいます。	かけがえのない存在 未来への希望
□□より	

資料1 手紙の書き方例

(ウ) 写真提供について

ねらい	自分や友達の誕生から今日までの成長の様子を写真(VTR)で見ることで、手紙に込められた思いをイメージ豊かにとらえることができ、自分も友達も多くの人に見守られて育ってきた大切な存在であると実感できるようにする。
留意点	① 学級PTAの際に、成長VTRの概要を説明し、生まれたばかりの頃の写真(誇り)、家族と一緒に写っている写真(感謝)の2枚の提供の依頼をする。 ② 写真はスキャナーで取り込み、すぐに返却する。 ③ 子どもの成長する写真2枚に学校で生き生きと活動している写真も追加して、BGMに合わせてVTRを作成する。

(エ) 情報交換について

ねらい	家庭や地域での道徳的実践を把握して、個の指導や全体の指導に生かしたり、学校での道徳的実践を知らせ、家庭で称賛してもらったりできるようにする。
留意点	① 学級PTAの際に、家での手伝いや地域行事・スポーツ少年団での活躍などを担任に伝えてもらうように依頼する。 ② 子どもが自他共によりよく生きようとしている姿を学級PTAや学級便りなどを通じて保護者に知らせる。

カ 『生命尊重』 道德学習 の 要 となる 道德の時間の指導の実際 【視点2】

主題名「支え合い生き抜こうとする思い」 資料名「だくうでに力を」 みんなのどうとく鹿児島県版：学習研究社	
ねらい	【内容】3-(1)生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。 生命が多くの人によって支えられているかけがえのないものであることに気付き、自他の生命を大切に生きていこうとする態度を育てる。
資料	平成15年8月6日に鹿児島市竜ヶ水で土砂崩れに巻き込まれた人々の中に、生まれて3か月の赤ちゃんを抱いた母親がいた。母親は警察官に助けられたり、見ず知らずのたくさんの人の助けに励まされたりしながら、勇気をもらい希望をもって赤ちゃんを抱き続けながら生き抜くという内容である。
過程	主な学習活動の流れと子どもの活動 子どもの発言や記述(◇) 各教科等の知識や経験を生かした発言や記述(◆) 成果(○)と課題(△) 関連付けの成果(☆)と課題(★)
導入	1 掲示された「五つの生命観」のパネルを見て、1学期の『生命尊重』道德学習と社会科の学習を振り返る。 ◆ 生まれるのは奇跡的なことだったお母さんのおかげ。 ◆ みんな支え合って生きている。 2 8.6水害のことを知り、災害から生きぬこうとする思いに問題意識をもつ。 生きぬこうとする強い思いについて考えよう。
	写真16 土砂災害の写真提示 ☆ 赤ちゃんを抱いた感覚を想起するため、教室掲示してある『生命尊重』道德学習のパネルを見せた。 ○ 災害写真を見て、その時の様子をつかむことができた。【発言、表情】
展開前半	3 読み物資料「だくうでに力を」を読んで、「支え合い生きぬく思い」について考える。 (1) だれもカッパを貸してくれないときお母さんはどう思ったでしょうか。 ◇ みんなパニック。自分のことで精一杯。 ◇ このままでは冷え切って死んでしまうかも。 ◇ 自分の命は失ってもいいから赤ちゃんだけは命に代えても守る。 (2) おまわりさんがドアを開けたとき、お母さんはどんな気持ちになったでしょうか。 ◇ ありがとう。これで赤ちゃんもわたしも生きる希望が出てきた。 ◇ みんな自分のことで精一杯なはずなのに、私たちのためにありがとう。 (3) 人々のために走り回るおまわりさんは、どんなことを考えていたのかな。 ◇ 警察として自分のことはいいから、そこにいる人みんなを助けたい。 ◆ 自分にも家族がいる。死んだら家族もつらいし、死ぬ方もつらい。 (4) 周りの人たちはどんな思いだったのだろうか。 ◇ 赤の他人でもみんな協力して、みんなで生きようとしていた。 (5) 赤ちゃんをだくうでに力を込めたときのお母さんはどんな思いだったのでしょうか。【主なワークシートの記述】 ◇ 自分の子どもは自分で守っていかないといけないから絶対自分で守りたい。 ◆ こんなに多くの人たちが自分のために助けてくれるからがんばろう。私も生きよう。 ◇ 必ず自分(お母さん)も赤ちゃんも生きて、一人の命もむだにせずにがんばって生きていこうと思い、勇気が出てきた。
	写真17 資料に入り込んで考える 写真18 状況を明確にして考える 写真19 多様な立場から考える 写真20 考えを交流して再構成する ○ 作成した範読CDを流し、表情の変化やサイドラインを引く動きから心の動きをつかめた。【観察】 ○ 赤ちゃんだけでなく守りたいという母の気持ちに寄り添える子どもが出てきた。【発言】 ○ 泥に埋まったパトカーの写真を見て危険な状況を明確に理解していた。【発言、表情】 ○ 自分だけではなく、周りの人が一緒に生きようとしていることや他の人から生きる勇気をもらえたことに気付けた。【発言】 ○ 見ず知らずの人たちを救うために動く警察官の責任感と家族のため自分も生き抜こうとする思いの両方の心情に気付けた。【発言】 ○ 母親が子どもを守ろうとする強い意志や周りの人との支え合いの視点で生きる力が湧いてきたことを書けた子どもが多かった。【ワークシート】 ☆ 1学期の『生命尊重』道德学習で母体内での成長を学習していたので、そこでの感謝の気持ちが働いたと考える。【観察】

過程	主な学習活動の流れと子どもの活動 子どもの発言や記述(◇) 各教科等の知識や経験を生かした発言や記述(◆)	成果(○)と課題(△) 関連付けの成果(☆)と課題(★)
展開後半	4 保護者からの手紙を読んで、生命を大切にする生き方について自覚を深める。   写真21 保護者代表の手紙の読み聞かせ 写真22 一人一人の心に届く保護者の手紙 5 手紙を読んで、これからどんな思いを大切に生きていこうと思いますか。 【主なワークシートの記述】 ◆ とてもみんなに大事にされて育てられたんだと思いました。これから、将来の夢に向かって勉強も習い事もがんばっていききたい。 ◆ いろいろな人の命を守ることをしたいと思いました。みんなのために、役に立つことができればとってもうれしいです。今日のことは一生忘れないと思います。 ◆ これからは、わたしを支えてくれる人たちみんなに感謝して、みんなと一緒に助け合ったり励まし合ったりして、人生を精いっぱい生きていきたいと思いました。支えてくれるみんなにありがとうございます。 ◆ わたしは小さいころ心臓の病気にかかりました。今も手術の傷がしっかり残っています。家族や親戚の方、役場の人などがお金を出し合ってくれたそうです。一人一人にお礼を言うと長くなるけど、はじめに浮かぶ言葉は「ありがとう」です。	○ 保護者代表による手紙の読み聞かせを全員が集中して真剣に聞いていた。【観察】 ☆ 事前に「五つの生命観」を示して手紙を準備してもらったので、一人一人に手紙を渡すことができた。 △ 感極まる子どもへの対応を丁寧に行う必要がある。 ○ 高まった課題意識をもって、自分への手紙を読むことで、真剣にこれまでの自分を「五つの生命観」から振り返って見つめていた。【観察】 ○ 手紙を読んだ上で、自分の生き方を考えることで、生きることへの「誇り」と支えてくれる家族や周りの人への「感謝」を深く自覚した記述をしていた。【ワークシート】
終末	6 自分が生まれたときの写真や家族と一緒に写った写真、友達と助け合って活動している写真がおさめられたVTRを視聴して、「自分もみんなも大切な存在だから自他共によりよく生きたい」という課題意識を高める。	☆ 保護者と共に写る自分を客観的に見ることで、見守られ支えられてきた自分を実感したよい表情をしていた。【観察】

(5) 検証授業Ⅱの考察

ア 【視点1】についての考察

成果	・ 『生命尊重』道徳学習②の社会科の学習で、貿易による世界の人々との支え合いを学び、自分が知らない他者の生命の大切さに気付いた感想の記述が多く見られたことから、「五つの生命観」を基にして、子どもの「生命尊重」への気付きを生むことができたと考え。 ・ 『生命尊重』道徳学習①と②の2回の指導計画を作成することは、①で触れられなかった生命観を②に位置付けることができ、1年間を通して子どもと共に「五つの生命観」のすべての観点から生命の大切さについて多面的に考えを深めることができた。
課題	・ 運動会練習や米作りなど長期にわたる体験活動は、子どもの思いが多岐にわたるので、一つのねらいに絞って関連付けることが難しい。このような体験活動は、事後の生き方に発展させる実践の場として位置付ける必要がある。

イ 【視点2】についての考察

成果	・ 「五つの生命観」からの気付きをまとめた教室掲示を活用して言葉掛けを続けたことで、子どもに自分の道徳的実践のよさを自覚させることができるようになった。 ・ 保護者に「五つの生命観」に基づいた手紙を書いてもらうことで、すべての子どもにこれまでの自分の成長や周りの人が見守ってくれていることを自覚させることができた。
課題	・ 道徳の時間において、補充、深化、統合する各教科等の知識や経験は、ねらいに沿って更に精選する必要がある。

(6) 検証授業Ⅰ，Ⅱを通した子ども（蒲生小学校5年生51名）の変容の分析と考察

ア ワークシートの記述から

子どもの自分自身への「誇り」と他者への「感謝」の自覚の変容を見取るために、検証授業ⅠとⅡの道德の時間に使用したワークシートの記述の分析を行った（表10）（図20）（図21）。

表10 「誇り」や「感謝」の自覚の分析

「誇り」や「感謝」の自覚を読み取る視点													
誇り	◆ 「五つの生命観」から自分の生命の大切さに気付いている記述があるか。												
	◆ 自殺やいじめなど他者を傷付けるような行動を抑制しようとする思いが表れている記述があるか。												
	◆ 自律心や自尊心をもって、よりよく生きようとする思いが表れている記述があるか。												
感謝	◆ 「五つの生命観」から他者のおかげで自分が生きているということに気付いている記述があるか。												
	◆ 他者を思いやり、相手の役に立ちたいという思いが表れている記述があるか。												
	◆ 他者の立場や気持ちを理解して、共によりよく生きようとする思いが表れている記述があるか。												
実際の子ども記述（一部抜粋） 「誇り」の自覚 「感謝」の自覚													
検証授業Ⅰ	800兆分の1で受精卵になって、<u>たった一つしかない命</u>なのでその命を大切にしたい。 <u>一つしかない命だから、大切に今を生きていきたい</u>と思うから、<u>いじめや自殺を絶対にしたくない</u>。 - 生きたくても、<u>生きたくても病気でなくなってしまう人もいます</u>ので、<u>その人たちのためにも一生けん命生きよう</u>と思う。 <u>ぼくが今死んだら、母は悲しむから100才ぐらいまで生きたい</u>です。 <u>母からもらったこの命を、一つだけのこの命を1分1分命がつきるまで、いやなことや悲しいことに負けず、それを<u>周りの人</u>、そして<u>自分のために</u>大切に生きていきたい。</u> <u>人を笑顔に、幸せにする生き方、命をそまづにせず生きる。</u>												
	- 手紙を読んで、<u>自分がどれだけ大切にされているのかが、ようやく分かりました</u>。 <u>とてもみんなに大事にされて育てられたんだな</u>と思いました。これから、<u>将来の夢に向かって勉強も習い事もがんばって</u>いきたい。 <u>いろいろな人の命を守りたい</u>と思いました。<u>みんなのために、役に立つことができれば</u>とってもうれしいです。<u>今日のことは一生忘れない</u>と思います。 - これからは、<u>わたしを支えてくれる人たちみんなに感謝して、みんなと一緒に助け合ったり励まし合ったりして、人生を精一杯生きていきたい</u>と思いました。<u>支えてくれるみんなにありがとう</u>といいたいです。 <u>お母さんが苦しい思いをして生んでくれた私。お母さんとお父さんのやさしさが心に届きました</u>。これからは、<u>お母さんが病気と闘ったような強さをもって、思いやりのある人になりたい</u>と思います。												
「誇り」と「感謝」の自覚を読み取れる記述をした子どもの割合													
「誇り」と「感謝」の自覚の様子 <table> <tr> <td>■ 誇りと感謝</td> <td>42%</td> </tr> <tr> <td>■ 誇りのみ</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>□ 感謝のみ</td> <td>58%</td> </tr> </table>	■ 誇りと感謝	42%	■ 誇りのみ	0%	□ 感謝のみ	58%	「誇り」と「感謝」の自覚の様子 <table> <tr> <td>■ 誇りと感謝</td> <td>13%</td> </tr> <tr> <td>■ 誇りのみ</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>□ 感謝のみ</td> <td>85%</td> </tr> </table>	■ 誇りと感謝	13%	■ 誇りのみ	2%	□ 感謝のみ	85%
■ 誇りと感謝	42%												
■ 誇りのみ	0%												
□ 感謝のみ	58%												
■ 誇りと感謝	13%												
■ 誇りのみ	2%												
□ 感謝のみ	85%												

図20 「『生命尊重』道徳学習」①の分析

図21 「『生命尊重』道徳学習」②の分析

図20 「『生命尊重』道徳学習」①の分析

図21 「『生命尊重』道徳学習」②の分析

すべての子どもの記述に、各教科等における「五つの生命観」からの多面的な気づきを生かして、生命の大切さを自分とのかかわりでとらえ、「生命尊重」の自覚を深めている内容が含まれていた。

検証授業Ⅰでは、学習内容が生命のかけがえのなさに迫るものであったことから、限りある自分の生命を大切にしようとする自分自身への「誇り」を自覚した記述が多かったと考える。そこでの子どもの課題意識を生かして、検証授業Ⅱでは、子どもの生命を守ろうとする親の思いや、支え合って生き抜こうとする周りの人々の思いに迫る学習活動を行った上で、保護者からの手紙を読んで自分の生き方について考えさせた。それによって、自分が多くの人々に支

えられていることに気付き、他者への「感謝」の自覚を深めた記述が多くなったと考える。

自分自身への「誇り」と他者への「感謝」の自覚の両方を読み取れる記述が58%から85%に増えたことは、『生命尊重』道徳学習①と②を通して、「五つの生命観」から多面的に自他の生命の大切さについて考えを深める指導を繰り返し行ってきた成果だと考える。

イ 子どもの道徳的実践から

第5学年2学級の担任に、子どもの道徳的実践を見取り、その努力や意欲を支える指導を行ってもらった。具体的には、学級担任が指導チェックリスト(表11)を基に、「『生命尊重』道徳学習」の事前、事中、事後を通して、道徳的実践の見取りと適切な称賛を続けるというものである。

表11 5年生で使用した指導チェックリスト

5年生『生命尊重』道徳学習②		評価する	評価する子どもの姿例 (教師が見取る道徳的実践の想定)	指導に生かす声掛け例 (実証意欲を高める努力を支える教師の称賛)
番号	名前	場面		
1	A	各教科等 自分 への 関 心 を 自 覚 する 場面	理科「人の誕生」で、生命誕生や母体内の成長のすばらしさに気付いた発言や記述がある。	○さんは命のすばらしさに気付いているね。先生も命はすばらしいと思う。
2	B		国語「わらわつの中の神様」で、ものを大切にすることの意味に気付いた発言や記述がある。	○さんはものに込められた見えない思いにまで気付いたね。先生は、すごく大切なものの見方だと思うな。
3	C		保健「心の健康」で、自分も他の人もいある不安や悩みをもっていることに気付いた発言や記述がある。	○さんはみんなと励まし合ったり助け合ったりする大切さに気付いたね。先生もみんなに助けられて感謝している。
4	D		(社会科見学にて) めあてをもつて質問をしている。	○さんはなぜをいっぱい見付けられるね。先生も大事な質問だと思うな。
5	E		友達を遊びや弁当会費に誘っている(誘い合っている)。	○さんがさそったから笑顔が増えたね。先生もうれしいです。
6	F		自分の目標に向かって勉強や運動に励んでいる。	○さんは口をよくやっているからどんどん伸びていきますよ。先生はそういう○さんを応援しているよ。
7	G		友達にやさしく声をかけたり、親切にしたりしている。	○さんは人をうれしくさせることができるんだね。先生も見習いたいな。
8	H		家庭で、自分のことをしっかりやっていたり、家族のために役に立つことをしたり、生き物をお世話したりしていることを本人や保護者から聞いた。	○さんはお家でも口をできるんだね。お家の人が喜んでたよ。先生もうれしかったよ。
9	I		友達の思いやりある行いや親切な行いに「ありがとう」と感謝している。	○さんは口のやさしさに気付けたんだ。口さんもちい気持になったと思うよ。
10	J		友達と同じ目標を目指して協力したり、目標達成を喜んでしている。	○さんと△さんと口さんは、助け合うことの大切さを教えてくれる。先生はあなたたちの協力の大きさにびっくりしてよ。
11	K	他 者 へ の 関 心 を 自 覚 する 場面	友達ではない他者(先生、先輩後輩、少年団指導者や社会科で学習した人々など)に自分が助けられていることや支えられていることに気付いて感謝した発言や記述がある。	○○さんに「ありがとう」って言われたら先生も気持ちよくなったよ。ありがとう。○さんはいろんな人にお世話になっていることがよく分かったね。先生もいろんな人に「ありがとう」って言いたくなったよ。
12	L		上記以外に子どもがより生きようとする意欲や努力を評価し、称賛できたら追記する。	
13	M			
14	N			
15	O			
16	P			
17	Q			
18	R			
19	S			
20	T			
21	U	関 心 を 自 覚 する 場面		
22	V			
23	W			
24	X			
25	Y			
26	Z			
27	AA			
28	AB			
29	AC			
30	AD			
31	AE	関 心 を 自 覚 する 場面		
32	AF			
33	AG			
34	AH			
35	AI			
36	AJ			
37	AK			

- ・ 学級の子ども全員の道徳的実践を称賛することができた。
- ・ チェックリストを活用することで、○印がついていない子どもを意識して見るすることができた。
- ・ 称賛された子どもはやる気が出て、継続して実践するようになった。
- ・ 全体場で称賛したときは、照れている子どももいれば、誇らしげにしている子どももおり、周りの子どもも実践をするようになった。
- ・ 子どもの日記からよりよく生きる姿に気付き、全体に紹介したら、触発されてがんばる子が増えた。
- ・ 学習発表会の配役決めで、ケンカなく譲り合う姿に感動した。
- ・ 「うちのの人に手紙を書くとしたら、どんなことを書きたいですか」という問いに、子どもたちは「感謝の気持ち」を伝えたいと答えた。「ありがとう」「大好きだよ」という手紙の内容になっていた。
- ・ 「子どもから直接感謝の言葉をもらった」と保護者から喜びの報告があった。
- ・ 保護者の感想の中に、子ども宛に手紙を書いて、我が子のかけがえのなさを再確認できたというものが複数見られた。

資料2 学級担任の指導後の感想(一部抜粋)

『生命尊重』道徳学習②(10月)以降の1か月間、チェックリストを基に指導を続けた学級担任の感想(資料2)から、5年生のすべての子どもが、道徳的実践を行って、担任に称賛されたことが分かる。称賛された子どもは道徳的実践を継続し、周りの子どもは触発されて道徳的実践を行うようになったということも分かる。このことから、教師が「五つの生命観」から子どもを見取り、適切に称賛することによって、子どもは自他の生命の大切さの実感をより一層深めることができたのではないかと考える。

また、『生命尊重』道徳学習②に協力してくれた保護者が、我が子の大切さを再認識したことや、手紙を書くことによって自分の思いが子どもに伝えられたという喜びがあったことも分かる。このことは、家庭において、子どもがよりよく生きようとする意欲や努力を支える指導が一層充実していくことを期待させるものである。

『生命尊重』道徳学習②の指導は、即実践を求めるものではない。しかし、その中で自覚を深めた自分自身への「誇り」と他者への「感謝」の自覚は、潜在的、持続的に、自他共によりよく生きようとする道徳的実践を後押しする大きな力になったと考える。子ども一人一人の道徳的実践をすべて見取ることは難しいが、「五つの生命観」を基に、子どもの自他共によりよく生きようとする内面的な輝きを見付けようと努力することが重要だと考える。

IV 研究のまとめ

1 研究の成果

(1) 「五つの生命観」について

「五つの生命観」を明らかにすることで、これまでの「生命尊重」の指導を見直し、子どもの発達の段階に応じて、多面的に生命に触れる学習活動を構想することができた。また、子どもと教師、保護者が共通の生命観をもって、自他の生命の大切さについて考えを深めることができるようになった。

(2) 『生命尊重』道徳学習の指導計画作成について

「五つの生命観」に基づき、学校の教育活動全体を通して、いつ、どこで、どのような「生命尊重」の指導を行えばよいのかを明確にした『生命尊重』道徳学習の指導計画を作成することができた。その中で、これまで曖昧になりがちであった、道徳の時間の特質と各教科等の特質をはっきりと把握した上で、密接に関連付ける計画を作成することができた。

(3) 道徳の時間と各教科等に関連付ける指導の工夫について

各教科等において、それぞれの特質に応じて「五つの生命観」から直接的、間接的に生命に触れる学習活動を行うことで、子どもは実感を伴った知識を獲得したり経験を積んだりして、「生命尊重」に気付くことができた。

また、道徳の時間において、各教科等における「生命尊重」の気付きを補充、深化、統合する場面を設定することで、子どもは自分とのかかわりで「生命尊重」を多面的にとらえることができた。それによって、自他の生命を大切にすることについての理解が深まり、自分なりに発展させていくことへの思いや課題をもって、「生命尊重」の自覚を深めることができた。

さらに、子どもが自他の生命の大切さを実感できたときの具体的な発言や記述、実践への表出例を想定することで、子どものよりよく生きようとする思いを見取るための多くの視点を得て、すべての子どもを適切に称賛することができた。そして、子どもが自分自身への「誇り」と他者への「感謝」の自覚を深め、自他共によりよく生きようとする思いを膨らませることができたと考える。

2 今後の課題

(1) 「『生命尊重』道徳学習」の要となる道徳の時間において、各教科等における「生命尊重」の気付きを補充、深化、統合して「生命尊重」の自覚を深めるためには、活用する中心資料が重要な役割を担っている。今後は、子どもの実態や発達の段階に応じて、一人一人の心に響く魅力的な中心資料の開発を行う。

(2) 小学校6年間を見通した長期的な展望をもって「五つの生命観」を踏まえた綿密な指導を行い、子ども一人一人が自他の生命の大切さの実感をより一層深められるようにする。

【引用文献】

- | | | | | |
|----|------------|--------------------------|------------|-----------|
| ※1 | 嶋野道弘監修 | 『生命尊重の心をはぐくむ』 | 2005年 | 東洋館出版社 |
| ※2 | 柴原弘志 | 『中等教育資料(平成16年8月～17年1月号)』 | 2004・2005年 | 株式会社ぎょうせい |
| ※3 | 志布志市立安楽小学校 | 『研究公開研究紀要』 | 2008年 | |

【参考文献】

- | | | | | |
|---|-----------------|----------------------------------|-------|-------------------|
| ○ | 文部科学省 | 『小学校学習指導要領』 | 2008年 | 東京書籍 |
| ○ | 文部科学省 | 『小学校学習指導要領解説道徳編』 | 2008年 | 東洋館出版 |
| ○ | 文部科学省 | 『中学校学習指導要領解説道徳編』 | 2008年 | 日本文教出版 |
| ○ | 青木孝頼編著 | 『創造的道徳指導1巻』 | 1974年 | 明治図書 |
| ○ | 堀尾輝久 他著 | 『子どもの発達と教育(3～5巻)』 | 1979年 | 岩波書店 |
| ○ | 瀬戸 真編著 | 『自己を見つめる』 | 1986年 | 教育開発研究所 |
| ○ | 押谷由夫編著 | 『小学校道徳基礎基本と学習指導の実際』 | 2002年 | 東洋館出版社 |
| ○ | 金井 肇著 | 『こうすれば心が育つ今望まれる道徳教育』 | 2003年 | 小学館 |
| ○ | 永田繁雄編著 | 『研究授業小学校道徳』 | 2004年 | 明治図書 |
| ○ | 柴原弘志編著 | 『研究授業中学校道徳』 | 2005年 | 明治図書 |
| ○ | 遠藤克弥・田部井潤編著 | 『道徳教育を学ぶ』 | 2005年 | 川島書店 |
| ○ | 假屋園昭彦・永里智広・福田浩一 | 『感性・具象性－理性・抽象性の視座から捉えた道徳の授業のあり方』 | 2007年 | 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要 |
| ○ | 県総合教育センター | 『指導資料 道徳(第21～24号)』 | 1997年 | |
| ○ | 県教育委員会 | 『命の尊さを考える教育－指導資料－』 | 2001年 | |
| ○ | 長崎県教育委員会 | 『児童生徒の「生と死」のイメージに関する意識調査』 | 2005年 | |
| ○ | 兵庫県教育委員会 | 『「命の大切さ」を実感させる教育プログラム実践事例集』 | 2006年 | |
| ○ | 鹿児島市立桜洲小学校 | 『研究公開研究紀要』 | 2006年 | |

長期研修者〔池下 龍郎〕

担 当 所 員〔濱川 昌一〕

【研究の概要】

本研究は、「自分もみんなも生きててよかった。」と自他の生命の大切さを実感できる子どもを育てるために、子どもの実態と発達の段階に応じて、「五つの生命観」から生命の大切さに迫る『生命尊重』道徳学習』について研究したものである。

具体的には、各教科等と道徳の時間を密接に関連付けた『生命尊重』道徳学習』の指導計画を作成し、道徳の時間において「生命尊重」の自覚を深める指導の充実を中心に検証した。

その結果、自分自身への「誇り」や他者への「感謝」を自覚し、自他共によりよく生きようとする子どもの姿が多く見られるようになった。

【担当者の所見】

本研究は、道徳の内容項目の一つである「生命尊重」の道徳的価値を「五つの生命観」として整理し、それに基づいた道徳教育の進め方を『生命尊重』道徳学習』として構想したものである。

「五つの生命観」は、これまでの整理法に比べ、子どもにも教師にも分かりやすく、考えたり行動したりする際に手掛かりとなる視点として活用できる簡便なものになっている。

また、『生命尊重』道徳学習』は、子どもの発達の段階や各教科等の特質を踏まえながら、道徳の時間と各教科等の学習内容を一層効果的に関連付ける指導計画として構想されている。

さらに、『生命尊重』道徳学習』における道徳の時間を、各教科等で気付かせた生命に関する知識や経験を補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚を深める場として位置付け、その達成のために様々な工夫と考察を行っている。

本研究により、子どもが自他の生命の大切さを実感できるようになるのと同時に、教師自身に「生命尊重」に関する深い考察を促すことになると考える。

今後も、益々の研究と実践を重ねて、子どもや保護者、教師に対して道徳教育の大切さと楽しさを訴え続けてもらいたい。